～歩いてみませんか～　北条毛利いにしえロード

北条城は北条駅前の山上にあり、鯖石川と長鳥川に囲まれた標高約150mの丘陵に位置し、小千谷街道の渡し場を見下ろす要地に北条氏2代目の毛利道幸によって築城されたと伝えられています。

本丸跡は長さ160m、幅約15mの細長い曲輪で、北端には「北条古城址」と刻まれた石碑が建っています。また、本丸跡からは、安田城・善根城・旗持城など城館跡はじめ、柏崎市街・日本海・米山などが眺望できます。

遺構としては、本丸・二の丸を中心に多くの曲輪群と大規模な空堀群を巧みに配置した県内最大級の山城であり、戦国時代の様相をよく残した貴重な城址です。

平成7年、この遺構や神社・仏閣等を散策できるコースとして「北条いにしえロード」を創出し、巡りやすいようにコース順に案内看板を設置しました。

しかし、中越大震災（平成16年）と中越沖地震（平成19年）を連続して被災した北条地区の被害は大きく、看板も壊滅状態になりました。その後（平成20年）、「北条毛利いにしえロード」と改名し、新しく看板を建て替えました。

平成21年のNHK大河ドラマ「天地人」で、第11代城主北条高広が上杉謙信の重臣として登場したのを機に、各地から城址を訪れる人が増えております。

遥か中世に想いを馳せながら歩いてみませんか。

北条駅から徒歩で1時間30分あればゆっくりとお楽しみいただけます。

ちょっと足をのばしてみませんか

北条ふるさと市場「喫喫」

総菜・野菜
特産品販売
喫茶・軽食

名物・喫喫コロッケ

喫茶交流コーナー

場所はJR信越線越後広田駅から徒歩3分、北条コミュニティセンター前。
営業時間／11：00～17：00　定休日／月曜日　電話25－3211

安心・安全野菜　北条の特産品・つらなすす

収穫は7月中旬～9月下旬

- 雪国の土壌が育んだ黄緑色の美しいなすです。
- 地元産牛堆肥をたっぷり入れた元肥に、無農薬・有機栽培のなすは生食でも安心です。
- アクは少なく甘みがあり、料理のレパートリーが広がります。

―北条城址へのアクセス―

北陸自動車道「柏崎IC」から北条駅まで車で15分
JR信越線「北条駅」から北条城址まで徒歩で40分

お問い合わせは

柏崎市北条地区コミュニティ振興協議会
〒949-3724　新潟県柏崎市大字大広田93番地1
電話　0257(25)3355　FAX 0257(25)3354
E－mail　c-kitaio@city.kashiwazaki.niigata.jp

越後毛利氏発祥の地　北条

毛利氏は、鎌倉幕府を開いた源頼朝の重臣大江広元の子季光が相模国毛利荘（厚木市）を相続し、毛利氏を名乗ったことから始まります。

宝治の合戦でその一族は北条氏に滅ぼされ、本拠地の相模国毛利荘などは没収されましたが、この合戦に直接関わっていなかった季光の四男経光は佐橋荘と安芸国吉田荘（安芸高田市）を所領として許され、佐橋荘南条の地に定着したことから、柏崎市に毛利氏が誕生しました。

経光は文永7年、佐橋荘を南北に分け、北条を長男基親に、南条と吉田荘、家督を四男時親に譲り隠居しました。長男基親の所領は佐橋荘北条の地頭職だけでしたが、その長男時元は長鳥川北岸に私領を拓き、周囲の荘園を漸次収合して同川流域に着実に勢力を拡げ、北条毛利氏初代となりました。

歴代城主の中でも、上杉謙信の重臣として上野国厩橋（前橋市）に派遣された北条高広、御館の乱に関わったその子景広は鬼丹後としても有名です。北条城は景広を最後に約280年の歴史に幕を閉じました。

また、四男時親は六波羅探題評定衆となり、後に安芸吉田荘に下向。安芸毛利氏の初代となります。毛利元就を筆頭に、戦国時代西国随一となった毛利氏の祖は柏崎市南条に在留していた毛利経光です。このことは柏崎が全国に誇れる史実です。

経光は南条で没し、南条館のあった佐橋神社界隈に墓があるのではないかと伝えられています。越後毛利氏、西国毛利氏の祖が柏崎南条の地に眠る…。何と素敵なロマンでしょう。

北条毛利氏年表

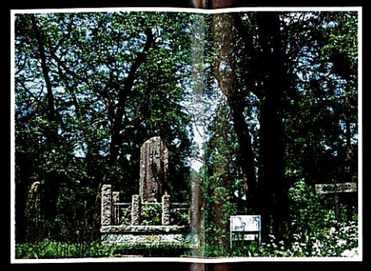
元　号	西暦	北条毛利氏関係	国内の動向
文治 2	1186	『吾妻鏡』に「佐橋庄」と荘園名が記されている。	
建久 3	1192	鎌倉幕府創設で大江広元が尽力し、相模国毛利荘（神奈川県）を拝領する。広元の四男季光が毛利荘を相続したため、毛利姓を名乗るようになった。	源頼朝、鎌倉幕府を開き、諸国に守護・地頭を置く。
承久 3	1221	毛利季光、「承久の乱」の戦功により、越後国佐橋荘、安芸国吉田荘（広島県）を拝領する。	承久の乱
宝治 元	1247	毛利季光一族は鎌倉で「三浦泰村の乱」に加担し、ほぼ族滅する。四男経光は地頭代として越後にいたため難を逃れる。のちに佐橋荘と吉田荘を安堵され、南条村に定着して地頭となり、南条館を構えた。	宝治の合戦
文永 7	1270	越後毛利氏の祖経光は、佐橋荘と安芸吉田荘の地頭職を四郎時親に相続する。長男基親は子の時元と長鳥川北岸に移る。	鎌倉幕府執権の北条時宗は蒙古のフビライからもたらされた国書を無視し、通交を拒絶する。文永11年（1274）10月、蒙古来襲。日本史上、最初の侵略危機を文永の役・弘安の役で辛うじて終息させる。 鎌倉時代末期、幕府の政治は腐敗しきり、天皇親政実現のために後醍醐天皇が討幕を策略。正慶2年（1333）、鎌倉幕府滅亡。建武3年（1336）、足利尊氏の建武式目制定で室町幕府が成立する。しかし、南北朝の対立はしばらく続く。
永仁 元	1293	時宗専称寺開山。遊行上人一遍の弟子真教による。	
応長 元	1311	北条毛利氏初代時元、長鳥川沿いに私領を拡げて北条館を構え、専称寺を再興して氏の菩提寺とする。	
暦応 3	1340	南条毛利時親とその直系は支領の安芸国吉田荘に移る。のちに曾孫の元春は西国毛利氏の初代となる。毛利元就の祖	
延文 5	1360	北条2代毛利道幸、越後国守護上杉憲顕の直臣となり、新田の残党を討つ。その功により、鵜川荘の地頭職を賜る。道幸はこの頃、北条城を築き要害とする。	
応安 7	1374	毛利道幸が恩賞として拝領した鵜川荘、安田条地頭職をその子朝広が譲り受け、安田初代となる。	
明応 6	1497		毛利広元の次男として元就が安芸吉田郡山城に生まれる。幼名松寿丸
永正 17	1520	北条毛利10代兼安田毛利5代の毛利広春、越中国新庄（富山県）の陣中にて、家臣に所領相続につき置文（遺書）を作成する。	
享禄 3	1530	「上条の乱」で為景方は北条輔広・安田景元らの戦功により、上条城主上杉定憲を降伏させる。	春日山城主長尾為景の次男虎千代誕生。のちの国主上杉謙信
天文 22	1553	第1回川中島合戦、北条毛利勢138名も出陣する。	能登守護畠山義続の次男義春、上杉謙信の下へ人質としてやってくる。のちに上条弥五郎政繁と名乗り、その妻は上杉景勝の姉
天文 23	1554	12月、北条高広、武田信玄に内通し、謀返を図る。一早く上杉謙信に報せたのが、安田毛利6代の景元	
弘治 元	1555	「北条城の包囲」。2月、上杉謙信自ら善根に出陣し、北条城を包囲した。孤立無援の高広勢は降伏した。	第2回川中島の合戦 上杉景勝誕生
永禄 4	1561	北条高広は謙信の小田原城北条氏康攻め、鎌倉での関東管領就任式に随行し、功績をあげる。	第4回川中島の合戦。武田信繁討死
永禄 6	1563	北条高広、上州厩橋城主に抜てきされ、子の景広も帯同して、謙信の関東経営に尽力する。	
永禄 9	1566	小田原北条氏・武田氏の関東侵攻を受け、高広は再び上杉謙信に背く。	
永禄 13	1569	上杉謙信は北条高広の帰参願いを受け容れる。	上杉家と北条家の越相同盟
元亀 2	1571		毛利元就、郡山城で死去
天正 2	1574	北条高広、隠居して上州大胡城に入り、家督を嫡男景広に譲る。	
天正 6	1578	上杉謙信の急死時、北条高広・景広父子は厩橋にあった。6月、景広は上州より越後に戻る。高広の父高定が上杉景勝に誅殺されたこともあり、景虎に味方し、景勝の実家上田坂戸城を攻撃する。10月、景広は鉢崎旗持山で、佐野清左衛門、蓼沼友重勢と交戦する。	3月13日、上杉謙信は春日山城内にて脳溢血で急逝する。享年49。直後、その跡目を巡り、養子の景勝と景虎が争う「御館の乱」が起こり、越後国内を二分する争乱となる。
天正 7	1579	1月、北条景広、柿崎猿毛城を突破。府中の御館にこもる景虎勢に合流し、首将となる。2月、景広、府中八幡宮参籠の帰途、田畦に潜む景勝方の雑兵荻田孫十郎に不覚の二鎗を突かれ、夜半に絶命する。享年32。府中の北条郎党は本所に向け逃れるも、鉢崎にて捕縛される。	上条弥五郎政繁、上杉景虎を新井鮫ヶ尾城で自刃に追い込む。
天正 9	1581	3月、上杉景勝軍、赤田・善根を拠点にし、北条城を包囲する。北条勢は籠城戦の末、城代家老石口采女の断により、専称寺住職を介し景勝に和睦を求め、北条城を明け渡す。	樋口兼続、上杉景勝の命によって与板城主・直江氏を継ぐ。
天正 12	1584	上杉景勝の側近桐沢具繁、北条城・枇杷島城の番将となる。	
天正 15	1587	北条高広、厩橋八幡宮に永代守護不入の書状を納める。これを最後に、高広の消息は途絶える。	
慶長 3	1598	上杉景勝、豊臣秀吉から会津120万石への移封を命じられる。北条城番将桐沢具繁も随従する。結果、北条城は自然廃城となる。安田毛利8代能元も会津へ追従。安田城も廃止される。	景勝の会津移封に伴い、直江兼続、米沢城30万石に入る。豊臣秀吉、伏見城で死去。享年62

毛利氏の家紋
「一文字に三つ星」

初代城主・北条毛利時元公墓碑

二の丸と本丸を結ぶ大空堀跡

本丸から望む柏崎市街と日本海



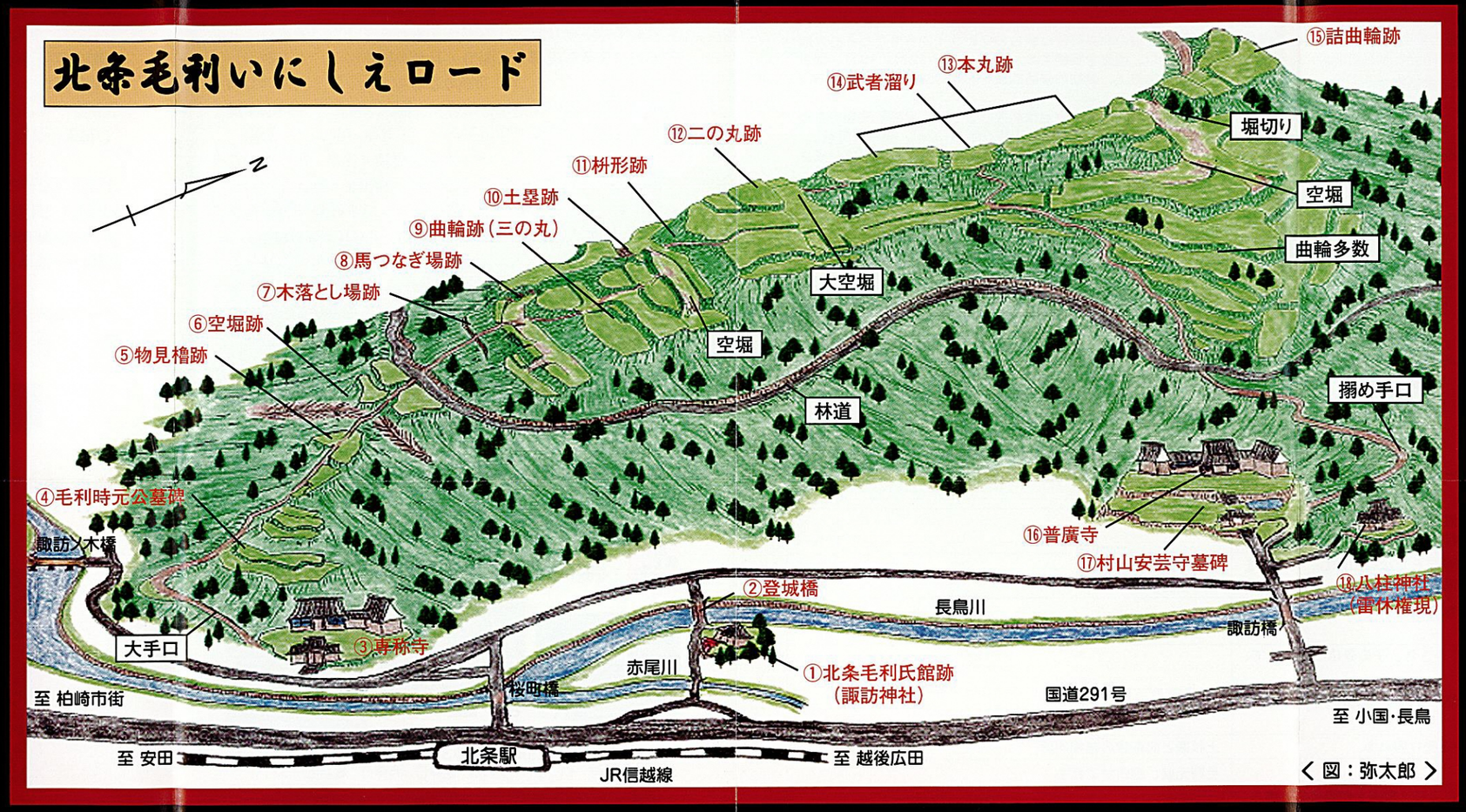
本丸北端にある北条古城址碑

普廣寺（搦め手口）

専称寺・大手門（北条毛利氏菩提寺）

北条毛利氏居館跡（諏訪神社）

北条駅前から望む城山



上杉九将図（米沢市上杉博物館蔵 江戸時代後期）

中央上部から時計回り順に
上杉謙信輝虎　長尾越前守政景　柿崎和泉守
北条丹後守　柴田上野守　宇佐美駿河守
本城越前守　甘粕近江守　直江山城守

北条毛利（きたじょう） いにしえロード 看板

① 北条毛利氏館跡（諏訪神社）

鎌倉時代中期。毛利氏当主家の日常の居館跡。ここで政務をとり、隣地には近臣らが住まいした。一帯は周囲より2mほど高い。

北条毛利いにしえロード

② 登城橋

居館より北条城へ向かい渡る橋。脇を流れる長鳥川は館の天然の外堀にあたる。平成19年度に現在の橋に架け替えられたが、それまでは木の橋であった。

北条毛利いにしえロード

③ 専称寺・大手門（北条毛利氏菩提寺）

北条城の大手門を移築したもの。「豆ノ木御門」とも呼ばれる。専称寺は北条毛利氏歴代の菩提寺。

北条毛利いにしえロード

④ 初代北条城主 毛利丹後守時元公墓碑

時元は毛利氏祖季光（すえみつ）の曾孫。鎌倉時代中期に定着し、北条毛利氏の初代となった。

北条毛利いにしえロード

⑤ 物見櫓（やぐら）跡

西側山裾からの敵に備えた見張り台。櫓は太丸太で三段に組み上げた造り。

北条毛利いにしえロード

⑥ 空堀跡

空堀は人工的に掘った侵入止め。敵が下り上がりするところを狙い討つ仕掛け。

北条毛利いにしえロード

⑦ 木落とし場跡

急斜面の上から、丸太や大石を登ってくる敵に向けて落とした場所。

北条毛利いにしえロード

⑧ 馬つなぎ場跡

平地より馬で武具、兵糧（ひょうろう）を運び上げた中継点。この先は人力で担ぎ上げた。

北条毛利いにしえロード

⑨ 曲輪（くるわ）跡

三の丸。武具・兵糧（ひょうろう）を蓄えておく倉庫群があり、将兵らも居住した。

北条毛利いにしえロード

⑩ 土塁跡

敵に対する本丸の構えの始まり。守る本隊の最前線。

北条毛利いにしえロード

⑪ 枡形跡

敵を直進させないため、カギ型に造作して迎え討つ構え。虎口（にぐち）ともいう。

北条毛利いにしえロード

⑫ 二の丸跡

城主一族の応急の居所跡。

北条毛利いにしえロード

⑬ 本丸跡

本丸跡は長さ160m、幅15mの細長い郭である。ここに本陣、武者溜りを配置した。

北条毛利いにしえロード

⑭ 武者溜（むしゃだま）り

本丸に参集した将兵らが待機して指示を仰いだ所。

北条毛利いにしえロード

⑮ 詰曲輪（つめぐるわ）跡

本丸の背後に見える曲輪跡。敵が本丸にまで侵入した際にひとまず退いて、陣を立て直す所。

北条毛利いにしえロード

⑯ 普廣寺（からめて）（搦手口）

表の大手口に対する裏の通路。戦略上、逆になることもある。

北条毛利いにしえロード

⑰ 村山安芸守正勝墓碑

毛利家重臣村山安芸守家は深沢城主にして普廣寺を開基し、村山氏歴代の菩提寺とした。

北条毛利いにしえロード

⑱ 八柱（やはしら）神社（雷休権現）

善根城主毛利浄広公由来の八石山の怪火（落雷）を鎮めた雷休権現が祀られている。

北条毛利いにしえロード